

九州

J2昇格へ向け

盛り上がる地元応援

萩原 博(KTS)

今年のGWは、息子たちの帰省を機に、折角なので何か家族の思い出になるものと、地元鹿児島のJ3サッカーチーム・鹿児島ユナイテッドFCのホーム試合の観戦に行った。5月5日、こどもの日、会場の白波スタジアム(鹿児島県立鴨池陸上競技場)は、5000人を超えるサポーターや家族連れで盛り上がった。会場周辺の出店でお弁当を



購入し、スタジアムに入ろうとすると、KTSのミニ中継車が見えた。「今日は中継かな？」と気になったところに、たまたまユナイテッドFCの徳重代表が通りか

かったため、中継のことを尋ねると、「今日の試合は、DAZN(ダゾーン)での中継配信ですよ」とのこと。ユナイテッドファンの息子が、千葉にいなながら試合ごとに中継配信番組を観て、コアなファンになるはずである。

サッカーの試合を見ると思い出す、昔の記憶がある。約45年前、大学3年の夏休みに、バックパックを担いでヨーロッパを旅して廻った。イタリアのローマに滞在した際、夜、街を歩いていると、店先のいたるところから、歓声が聞こえてくる。何かと覗くと、テレビのサッカーの試合を見ながら、老若男女、大盛り上がりではないか。

当時、日本ではJリーグも発足しておらず、実業団チームの頃である。ただ、イタリア人たちは、サッカーではなく「フットボール」と呼んでいた。

私自身、主に野球をやってお

り、サッカーは応援で試合に出たりしてはいたが、イタリアでの思い出から約15年後の1991年、日本にJリーグが設立されるなど、当時は夢にも思わなかった。

もう一つの思い出は、2014年。鹿児島で活動していた2つのチームが統合し、鹿児島ユナイテッドFCとしてJ3でスタートする時、当然ながら番組の話が局に持ち込まれ、プロジェクトチームで協議することになった。

過去に経験のないサッカーの番組ということもあり、制作、アナウンス現場からは「録画番組で」という意見が大勢を占めた。しかしながら編成部長として、昼間の試合を夜に録画放送するなど想定外だったので「生中継」を強く主張し、なんとかその方向で進めることになった。今となっては当たり前だが、中継を担当した技術スタッフや、相当な努力をしたであろうスポーツ担当アナウン

サーに敬意を表したい。

さて、試合に戻ろう。ホーム戦とはいえ、ユナイテッドは大量4点のゴールを決め、地元ファンにとってはこの上ない結果となり、J3の順位も3位になった。シーズンの最終結果が2位までであればJ2へ昇格する。新スタジアム構想も含め、鹿児島が大いに盛り上がることは間違いない。

期待を込めて、チエスト向け！
ユナイテッドFC！

